2005. 1. 10
No.131

編集　樋口　みな子

E-mail
minginga@agate.plala.or.jp
郵便振替
「銀河通信」02740－7－56535
（６号分1,000円）

## 自然派センスをみがきます

明けましておめでとうございます。

新しい年を三角山頂上のイグルーの前で迎えました。三角山は正三角形の美しい山容と市街地から近い事から札幌市民から親しまれている山です。木々の葉を落としてしまった冬は山頂から札幌市街が見渡せます。

まだ暗い6時から登り始めましたが、山頂にはすでに10人ほどが登っていました。7時5分雲に隠れて初日の出は見ることができませんでいたが、7時30分頃、薄いオレンジに染まった空に向かって、平和と健康を祈りました。

今年こそ、平和で、人や自然界のいのちが大事にされる年であって欲しいと願っています。

銀河通信は身近な自然や、山の素晴らしさや楽しさを伝えたいと努力してきましたが、まだまだ表現不足です。自然体験を読者に生き生きと魅力的に伝えたいと思います。

今年もご愛読よろしくお願いいたします。

2005年・1月

江別郊外の夕日

元旦　三角山で歌いはじめ

## 三角山でイグルーを作りました

完成したイグルーの前

年末の２９日に日本山岳会の新妻徹さんのお誘いで高橋宣也さん海老名名保さんとで三角山のイグルーづくりに参加しました。

元旦の初日の出を迎えるイグルーづくりは１０年間行われてきたそうです。私はたった１日だけの参加でしたが、２５日から新妻さんたちは雪を踏み固め、切り出しの準備を行い、４段まで積み上げていました。海老名さんはその一部始終をビデオに収めました。私の役目は、イグルーが完成する前に、中の雪を掘り出して、テーブルと椅子を作ること。固く締まった雪は、最初スコップを入れるのも大変。腰痛バンドをしながらの作業です。でもイグルーの中は暖かく快適でした。１０時４０分から作業を開始し、３時過ぎに内径２メートル、高さ２メートルの１２段のイグルーが完成しました。１０人入れるぐらいの円錐のイグルーは西日を浴びて。藻岩山や百松沢山をバックに、美しく輝いていました。私も微力ながら製作に汗を流し４人で完成の喜びをかみしめました。私が作ったのはちょっといびつなテーブルでしたが、新妻さんはその後も通って、イグルーの隙間を埋めたり、テーブルも美しく直してくださっていました。

雪って素敵ですね。冬の自然体験、是非子どもたちにも味わって欲しいです。

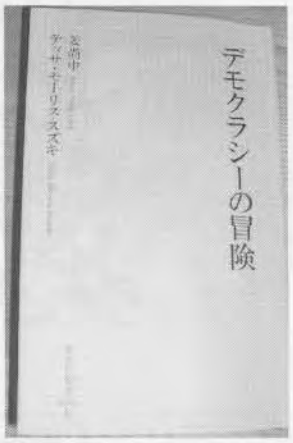
## 本 BooKs

### 「デモクラシーの冒険」
### 姜尚中・テッサ・モリス・スズキ著

集英社新書　７２０円

本書は世界的に進行するデモクラシーの空洞化を分析しながら、私たちの政治参加の可能性についての対談です。

人々が自らの意思を政治に反映される回路がないと無力感に陥り、それでいて居心地のいい「消費者」になっていると語ります。戦争まで民営化する国家と企業の癒着が公的、私的領域の双方を抑圧する事態や、非国民への非民主化の進行などの考察にハッとさせられます。

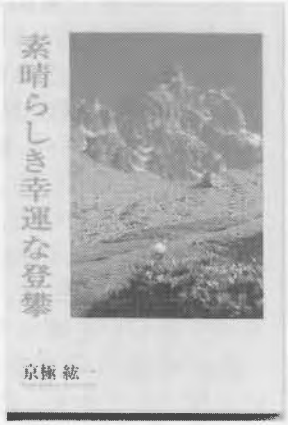



いつの間にかマスコミの報道を鵜呑みにしてしまっていることに気づかされます。あとがきに「デモクラシーの空間にデーモスとして足を踏み入れ、自分たちが公的な存在として、相互に認知しあうとき、自分は決して無力ではないことをはじめて感じるのではないだろうか。一懐疑の目を養えば、いま私たち、デーモスにとって何が問題なのか、何が優先的に議論されなければならないのかが少しずつわかってくるはずだ」とあります。本当にそうですね。巻末のみんなでつくるデモクラシー・マニフェストが参考になります。たとえば、もっとも不利益をこうむる者が、もっとも発言力をもつ。デモクラシーは自宅から始まる。すべての人間は権力による抑圧に抗するために失敗を恐れずに行動する権利がある。物事を判断する基準として、心したいと思いました。

この通信が読者とのデーモスのきずなを広げていけたらと思います。

### 「素晴らしき幸運な登攀」　京極　紘一著　北海道新聞社出版局　１５００円

京極さんは北海道のロッククライミングの新ルートを開拓したひとりです。芦別岳γルンゼや利尻山西壁、崕山ＣＩ峰・崕大壁初登攀など、まるで昨日のことのように臨場感あふれる文章に惹きつけられました。芦別岳夫婦岩南峰リッジ積雪期の初登攀のクライマックス「最終の十二ピッチ目は、雪の中からハイマツを掘り出して、庇状の雪塊を強引に抜けてはい上がると目の前には緩い雪稜が南峰の頭まで続いていた。ザイルをループに束ねてコンティニアスで進み、最後は二人で肩を組み並んで快晴の頂上に立った。丁度十三時である。ありがとう！と会心の登攀に堅い握手をかわすが、あとは言葉が出なかった。」とあり、静かに喜びをかみしめた気持が伝わってきます。カフカズの登攀も印象的。私には見たこともない光景が目に浮かぶような美しさを伝えています。




３０年前の記憶を、日記や、発表した小文やメモなどから、見事に鮮やかに表現しています。仲間を大事にする思いやりや、謙虚な人柄がにじみでて、厳しいクライミングなのに、チームワークの素晴らしさも伝えています。

北海道カフカズ登山隊長、北海道山岳連盟ミニヤコンガ偵察隊長、北海道カムチャッカ登山隊長等を歴任。日本山岳会会員で支部晩餐会でご本人に会えたことが嬉しいです。

### 「北海道　山歩き　花めぐり」　梅沢　俊著　北海道新聞社　１８００円

梅沢俊さんが北海道新聞紙上に約２年間、９１回にわたって連載した記事に伝えきれない部分に文と写真を大幅に補足しています。道内７６、海外１３の山、高原、湿原、川と共に、そこに咲く花３００枚以上の写真で紹介しています。

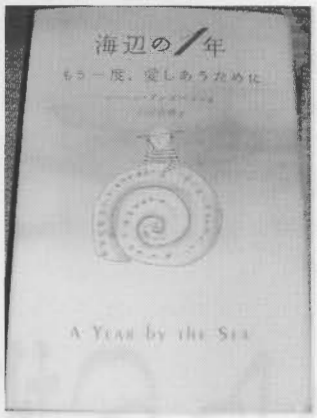
私は高山植物盗掘防止ネットの事務局にも関わっていますが、各地の取り組みも紹介しています。アポイ岳では登山マナーを促す看板には、「この場所は、皆さんがロープから立ち入らなくなったおかげで高山植物が回復してきました」の文面。登山者に協力しようという気持にさせると書いており、運動が押し付けになっては駄目なことを教えてくれています。一方で、大平山は盗掘によって姿を消してしまった高山植物があります。この登山口近くに２０年と１００億円をかけて道路が開通します。登山者が増えれば高山植物に及ぼす影響は多大なことは目に見えていること、余りにも代償が大きいと書いています。多くの人にこの事実を知って欲しいです。はかなきオオヒラウスユキソウやアツモリソウを守るために知恵を絞らねばと思います。

家族で８年前に登った懐かしいマウント・クックが紹介されていて、あの時歩いた氷河へと続く道を思い出しました。

低山から厳しい日高の山々まで、まさしく素晴らしい山と花の写真と、ウイットに富んだ文章で、一緒に未知の山々を登っているような楽しさを味わいました。

## 「海辺の１年　もう一度愛し合うために」ジョーン・アンダーソン著　小沢瑞穂訳

光文社　１６００円



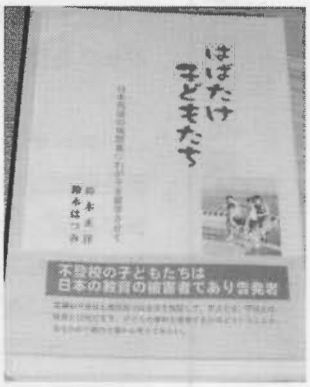

結婚２５年　、当時５０歳の著者は、二人の息子が巣立っていった後の夫との冷えた関係を見つめなおすために一年間別居。自分自身を取り戻すまでの心の軌跡を綴ったエッセイです。本書の夫婦は、離婚を選ばずに再生の道を選びます。

互いの違いに惹かれて結婚したのに、共に人生を楽しもうとしない夫に疲れ果てるジョンが語られます。海辺のコテージでひとり暮らし、アザラシに会い、童女の心を持った老女、ジョン・エリクソンと出会います。彼女の内面を見通してくれる人生の師とも呼べる老ジョンとの交流が素敵です。「人は孤独の中で成長し、幻滅を感じた後でしか真実を見出せないものなのよ」と老ジョーンは言います。年上の女友達の支えと知恵がいかに大きいか、私もそんな女性と出会いたいです。ジョーンは毎日、ながめる潮の満ち引きや一緒に遊ぶアザラシたちに、心の平和と均衡を与えられ、生活のために魚市場で働く中で、妻でもない、母でもない自分自身を取り戻していくのです。

私も夢中で生きてきたけれど、これで良かったのかなと、ふと空しさを覚えることがありました。自分の人生と重ねて読んでいる自分がいました。でも、私には山や身近な自然から,命の息吹きを感じたり、エネルギーをもらってきた幸せを思わずにはいられません。私も結婚２０年を迎えました。こんな本の紹介もあってもいいですよね。

## 「はばたけ子どもたち」　日本西端の鳩間島にわが子を留学させて
## 鈴木　正洋・　鈴木　はつみ著

自費出版　ＴＥＬ／ＦＡＸ　０５５３－４４－５０７８
Ｅ－ｍａｉｌ　ｋｙｄｏ_ｓａｎｓｏｕ@ｙｂｂ.ｎｅ.ｊｐ

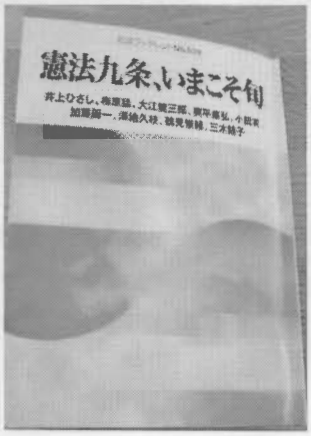



鈴木さん夫婦が、息子正輝君の不登校に向き合い、鳩間島での学校生活がどんなであったのかを検証した本です。学ぶとは、学校とは、教育とは何だろう、子どもの権利を尊重するとはどういうことかを問いかけています。

正輝君は二年間の不登校を経て、自らの意思で沖縄の鳩間島に行くことを決意。周囲４キロメートル、人口５０人のサンゴ礁に囲まれた島で生き生きと学び始めるのです。小中学校会わせて生徒１５人、教職員１２人の小さな学校の教育力が素晴らしいです。豊かな自然、地元の人たちの温かさにつつまれて正輝君が生き生きと輝いています。息子にもこんな体験をさせてあげたかったです。鳩間島が特別な学校ではなくて、どの学校も、全ての子どもたちが明るく、学ぶことが楽しいところであって欲しい、ひとりひとりの個性が発揮できるところであって欲しいとの願いが正輝君の笑顔が伝えています。山梨県一宮町在住。

## 「憲法九条、いまこそ旬」　井上ひさし、梅原猛、大江健三郎、奥平康弘、小田実、加藤周一、澤地久枝、鶴見俊輔、三木睦子

岩波ブックレット　４８０円




昨年７月に開かれた「九条の会」発足記念講演会の記録がブックレットになりました。

井上ひさしさんは「私たちがときの政府に対して命令するというのが憲法です。」といい大江健三郎さんは「核兵器、核の権力、ブッシュから小泉にいたる核権力に対して抵抗し、しかも勝つことがあるとすれば、それは一人の少女が折る折鶴を含めて私たちが、自分たちの心の中にどのように広島を回復させることができるかということにかかっている」と主張しています。

改憲の勢力が増す今、憲法九条を守りきることが再び「戦争への道」を阻止する力になると思います。この呼びかけを多くの人たちに届けたいです。

# 歴史を掘る東アジアの若者

## 朝鮮人強制連行 犠牲者の遺骨発掘 共同作業で

## きずなは民族・国境を超えて

空知民衆史講座　深川市多度志

## 殿平善彦さん

深い雪に覆われた山道を、深川市多度志に一乗寺住職の殿平善彦さんを訪ねました。殿平さんは、朝鮮人強制連行の歴史を仲間と学びながら犠牲者の遺骨を発掘し、戦争とは何であったのかを検証してきました。「何故、掘るのかと問われれば、死んだ人間の声を聴くということではないかと思います。遺骨を掘ることを通して、遺骨の失われた声が聞こえるということがある」。殿平さんのお話を聞きながら、生きている私たちに語られて来るその声は、きっと「再び人道に反する罪を犯してはならない」と言っているに違いないと思うのでした。（インタビュアー・樋口みな子）

空知民衆史講座をはじめたきっかけは？

1974年に靖国神社法案が衆議院で強行採決されましたね。参議院で廃案になりましたが大変なことだと思いました。署名や請願も大事ですが、日本人の戦争責任、戦争とは何であったのかを考えなければならないと思い、76年7月に発足させました。第1回講座「朝鮮人強制連行・強制労働の証言を聞く集い」では在日朝鮮人の蔡晩鎮（チョ・マンジン）さんに、タコ部屋から脱走してつかまり、拷問を受けて九死に一生を得た体験を語っていただきました。

講座発足から遺骨の発掘調査までに3年の歳月がありますね。

76年9月、幌加内町朱鞠内の光顕寺で、1935年から45年頃にかけて亡くなった方たちの80もの位牌を発見しました。朝鮮人と思われる名前がいくつもありました。光顕寺は戦時中、ダム工事と鉄道工事で犠牲になった朝鮮人やタコ部屋労働者の遺体が一晩置かれたお寺です。長い沈黙の時間を強いられてきた犠牲者が闇から語りかけてくるように思いました。

私たちは朱鞠内の共同墓地に埋められている人たちの調査から始め、過去帳や幌加内町役場にあった埋火葬認許証から犠牲者の名前を調べました。当時、名前が判明した犠牲者は110人でした。そのうち朝鮮人の名前が15人あったのですが遺族調査は困難でした。蔡さんの提案で、韓国の本籍地に亡くなったご本人宛の手紙を書きました。1カ

東アジアの若者たちの交流を楽しそうに語る殿平さん

**とのひら　よしひこ**
1945年生まれ。龍谷大学大学院文学研究科中退。浄土真宗本願寺派一乗寺住職、多度志保育園園長。空知民衆史講座代表。70年代から幌加内町朱鞠内などでタコ部屋労働、朝鮮人強制連行の調査・研究。東アジア共同ワークショップを支援し、東アジアの若者の交流を図る。「笹の墓標―朱鞠内ダム工事掘り起こし」（共著）など著書多数。

樋口さん（中央）と。「あ、エンチョー変な格好してる」「エンチョーって、お坊さんなの？」「そうだよ、知らなかったのかい？」

民衆史講座代表
市多度志・一乗寺住職

# 平 善彦さん

# 者たち

く80年5月に発掘が始まったのです。83年までの4年間で16体を発掘しました。

遺骨返還のため82年に韓国を訪問していますね？

光州事件の2年後で、民衆への弾圧が激しく、遺骨を発掘しているということさえご遺族に伝えられないまま帰ってきました。

遺骨をお返しできたのは10年後の92年10月です。ご遺族のおひとりが「皆さんのおかげで叔父の供養ができて本当に嬉しい」と言ってくれました。

日韓共同ワークショップはどのように誕生したのですか？

89年に、当時まだ30代前半の鄭炳浩（チョン・ビョンホ）さんが幼児教育の研究者として、私のやっている多度志保育園に一カ月の泊り込みでやってきたのです。彼は韓国の民主化運動を闘った人で、毎晩、酒を飲みながら民衆史運動のこと、保育のことなど語り合い、すっかり意気投合しました。この関係を2人だけのものにとどめるのはもったいないと思い、2人で共同代表となって日韓共同ワークショップを97年夏に開催しました。韓国から50人、在日朝鮮人が12人、日本人40人、スタッフを入れると総勢200人が9日間にわたって寝食を共にしながら作業し、4体の遺骨を発掘しました。参加者はほとんどが10代～20代の若者で、初めて固有名詞の出会いをするんです。韓国人の学生らは「日本に強制連行されて犠牲になったハラボジ（祖父）のお骨を掘るんだ」と意気込み、重圧を感じながら北海道へ来たと思うんです。でも遺骨の発掘という共同作業の経験がお互いの気持を近いものにし、一気に融合しました。

ワークショップは遺骨の発掘が終わっても続くのですか？　冬のワークショップもあると伺いましたが？

2001年に東アジア共同ワークショップと名称を変え、日本、韓国、在日、アイヌの若者たちに中国、モンゴルの若者たちが加わり、2月にはネパールからも来るというように8年間かかって、若者たちの輪が延べ千人を超えました。

発掘が終わってもその現場で過酷な体験を聴いて、踏みにじられた命に応えなければならないという思いが生まれてくる。日本とアジアの歴史の事実と向き合わない限り、アジアの人々と出会っても本当の対話は成りたたないということが大事だと思います。

光顕寺は犠牲になった人びとの記憶を今に伝える大切な場所ですから「笹の墓標展示館」と名づけて維持しています。朱鞠内は豪雪の地ですから、毎年2月には日、韓、在日、アイヌの若者たちが人海戦術で屋根の雪下ろしをしています。

東アジア共同ワークショップが平和への架け橋になると素敵ですね。

私たちが集まることで朱鞠内が歴史の記憶を刻む場所になり、新しい歴史を育てる場所になりました。私たちの絆がアジアの平和の共同体をつくるための小さな芽となり、育とうとしています。彼らが国境を越えてつながりあい、相互に理解を深め、平和のメッセージを伝え、共同の未来をつくっていくのではないかと希望を持っています。

私たちを取り巻く現実は厳しいけれど、自立した個人が民族を超え、国境を越えて育っていくアジアを夢見ています。

月もたたずに遺族から7通の返事が来ました。これは驚きでした。突然いなくなった人への思いは、30年たっても40年たっても変わらないのだと改めて気づかせていただきました。なんとしても笹やぶの土の中からお骨を出してあげたいと思いました。地元の人たちが一緒に掘ろうと決心するまで話し合いを続け、ようや

# 映画

## 「イブラヒブおじさんとコーランの花たち」

パリの裏通りのユダヤ人街で、母の顔も知らず、父からも愛されずに育った１３歳の少年モモ。ある日、彼は近所のトルコ人が営む小さな食料品店で万引きをします。でも叱らず「盗みを続けるなら、うちの店でやってくれ」と老人のイブラヒムは温かく見守り続け、笑顔を知らないユダヤ人の少年に笑うこと、人生の素晴らしさを教えるのです。

６０年代初頭のノスタルジックな音楽が素敵です。活気あふれるパリの裏通りを舞台に年老いたトルコ商人のイブラヒムから、人生の楽しみや喜びを見出していく少年モモ。モモの成長と、二人の人種や世代を超えたきずなが胸を打ちます。イブラヒムのつつましく、誰をも受け入れる、大空のようなおおらかな人生観に豊かな気持になりました。宗教や土地にとらわれず、マイノリティの人たちが助け合って暮らすことが平和に生きることなんだというイブラヒムに大事なことを教えてもらい感動深かったです。

## 結婚２０周年になります

１月１３日で、結婚２０周年になります。私は８５年３月まで旭川に住んでいましたので、３ヶ月間別居でした。旭川と札幌を往復した頃が楽しかったです。勤めていた旭川医大では、臨床検査技師として、主に脳波や生理検査を担当していましたが、４月から札幌の民医連の病院で働くようになり患者数の多さに圧倒されました。新しい職場と家事に慣れるまでが大変でした。夫、澄生は当時，北辰中学の教員で帰りはいつも８時過ぎ。家事を手伝わない夫に怒り、アパートの部屋を真っ暗にしてハンストを決行したこともありました。「旭川に家出した」と思い込んだそうです。８６年４月に息子、遼が生まれました。夫は札幌中学に転勤。生後２ヶ月から息子を職場保育園に預けて共働きを続けてきました。体力には自信があったつもりでしたが、仕事と育児で眠る時間が少なく、体重は４５キロをきりました。このころ、とことん眠りたいと思ったものです。

「みな子さん、運転免許もっていたの！」とよく聞かれますが、息子が小学校にあがるまでの６年間、保育園の送り迎えや、買い物に軽乗用車に乗っていました。でもよっぽどそそっかしいのか、車にキイをつけたままで買い物に行き、夫に二度迎えに来てもらいました。近くのガソリンスタンドに飛び込んで、開けてもらったこともありました息子を忘れてこなかったから許されるかな・・・。仕事帰りでよっぽど疲れていたのでしょうね。というわけで、車の運転に関しては、夫から全く信用されていません。

忙しさだけに追われるだけでなく、文化的なこともしたいなと、遼が２歳になったのを機に、家族新聞「銀河通信」を８８年に創刊号を出しました。さまざまな家族のできごとを伝えてきましたが、小学校高学年になる頃から、自分のことを書かれるのを嫌がるようになり、主に私がやっている自然保護の活動や、山行記、好きな映画や本を紹介など個人紙に変化して現在に至っています。

若々しかった夫も５０代になりました。教育を巡る状況は、マスコミでもたびたび取り上げられるように管理がいっそう強められています。好きな星を見るゆとりもないようです。明園中、北都中と変わり現在は日章中学に勤務しています。息子は１８歳、自分探しの真っ最中です。私は１７年近く勤めた民医連を退職して、４年目になりました。最近、やっと仕事をやめて良かったと思えるようになりました。健康になって、山登りができるゆとりが出来たこと、家族にとっても「我が家が一番くつろげる場」になっているようです。時々のライターも楽しんでいます。

これからもベクトルを合わせながら、家族で歩んでいきたいと思います。

## お便り

●いつも中身の濃いメッセージをありがとう。どうしたらそんなに本が読めるのか映画を観ることができるのか・・・みな子さんはスゴイ！（札幌市　Sさん）
●日本山岳会会員として、冬山訓練へと進みますますパワーアップですね。「九条の会」講演には私も行ってました。熱気がすごかったですね。小田実氏の話、私の胸の中にすとんと落ちる内容で納得でした。〔札幌市　Hさん）
●みな子さんの積極的な活動の様子や、さまざまな情報に刺激を受けてます。今、利尻に住んでいます。（利尻町　Nさん）
●自分で行けない場所、見れない映画、参加できない活動に銀河通信で触れられることがうれしいです。（札幌市　Tさん）
●新タイトルはぴったりですね、見ていてあきないです。（札幌市　Wさん）

江別市・但馬桂子さんの植物画

2004.12.8 ジョンレノン追悼コンサート

●いつも有益な情報をありがとうございます。北海道を懐かしく思い出しながら読んでいます。（福島市　W さん）
●自分の活動と違うところのお話がわかって嬉しい。（黒松内町　Tさん）
●毎号生き生きしてますね。タイトルのカットがほのぼの調でとてもいい。このムードがあるから超辛口の記事があっても中和される。（長沼町　加藤多一さん）
●いつも楽しみに拝読してます。みな子さんのバイタリティに敬服してます。（幌加内町　Mさん）
●映画コーナーを楽しみにしています。（利尻町　Sさん）
●新しいタイトル絵なかなかいいですね。ただ私としては「銀河」のもつ広さ、歴史性も大事だと思っています。（宮沢賢治的な）（札幌市　Sさん）

江別市・福永恭子さんの絵手紙

●銀河通信は私の知りたいことがいっぱいです。住田さんの植物画展をみな子さんの民医連新聞の記事で知り、すぐに見に行きました。それで私も描いてみたいなと思い練習しています。また先日，神谷美恵子さんの本を買って読んでいました。更に美瑛の避難小屋、トムラの南沼の排泄の問題では心痛めていました。上ホロ登山時には、佐藤文彦さんにトイレのことや、ゴミの回収、ステッキの先が植生を傷めることなど教わったばかりでした。（江別市　Tさん）

### 購読料をありがとう　　2004・11・29～2005・1・5

梅沢俊・節子（札幌市）　安川誠二（札幌市）　清水和男（福島町）　今野平支郎（札幌市）　倉田修（幌延町）　鎌田直子（市川市）　笠井嗣夫（札幌市）　仮屋志郎（札幌市）　千葉朋代（札幌市）　大橋晃（札幌市）　菅沼宏之（札幌市）　宮本紀子（東京・中野区）　杉本裕子（熊谷市）　太田肇・朋子（東京・世田谷区）　中村智鶴（利尻町）　高野ケイ（札幌市）　伊藤恒雄・牧子（江別市）　斉藤浪子（当別町）　渡辺妙子（札幌市）　阿保亘（帯広市）　助田梨枝子（芽室市）　宮崎初恵（札幌市）　八木橋貞美（札幌市）　本田明子（札幌市）　伊藤康弘（札幌市）渡辺亜貴子（福島市）　加藤多一（長沼町）熊沢静子（札幌市）　田中さとじ（黒松内町）　佐藤雅彦（利尻町）佐藤泰子（札幌市）　塙とよ子（札幌市）　坂井恒俊（旭川市）　反橋一夫（札幌市）　安念信子（江別市）　本城昭一（夕張市）　宮原光江（幌加内町）　後藤言行（小樽市）　青木博信（札幌市）　小枝正人（川崎市）　山崎くみ子（札幌市）　高橋恵理（札幌市）　塩川哲男（札幌市）　長島香（札幌市）　石川悦子（旭川市）と鈴木美紀（北広島市）からは切手、梅沢さんからはカレンダー、北芝梅子さんからは柿を送っていただきました。

カンパも含めて１０、７０００円は、印刷、送料に使わせていただきます。ありがとうございます。多くの読者が市民運動など、さまざまな活動をしています。購読料は負担にならない程度と考えております。２０００円以上を送っ下さるかたは１２号分か１０００円カンパかがわかるように振込み用紙に書いていただけると助かります。たくさんの方に購読料以上のカンパをいただき助けられています。本当にありがとうございます。縮刷版を出す時にも役立てたいと思っています。（樋口みな子）

# 2004・みな子の3大ニュース

## 笑顔で元気に

### Ⅰ　旭川時代の友人らと１０年ぶりに再会しました

大雪の自然を守る会（当時）で一緒に自然保護の運動に頑張り、互いの悩みを語り合った友人宮本（旧姓塩入）紀子さんと杉本（旧姓笹本）裕子さんと１２月に１０年ぶりに東京で再会しました。高校はそれぞれに違いますが同級生です。紀子さんは市の保健師として、裕子さんは児童相談所の相談員として、みな子は旭川医大の検査技師として働いていました。共通しているのは３人とも３０代で結婚したことです。紀子さんは東京人になり、裕子さんは熊谷市の人となりました。会うと、すぐに何の違和感もなくとけこめ、２８年前の青春時代にタイムスリップしたかのようでした。裕子さんは２３歳（長男）、２１歳（長女）、１５歳（次男）の三人の母となり、地域の助け合いのボランティアとして生き生きと頑張っています。札幌のお母様を最近亡くされその悲しみが胸に沁みました。紀子さんは２１歳（長男）１８歳（長女）１４歳（次女）１２歳（次男）の四人の母になり、しかも都の保健師として共働きを続けています。さらに旭川で暮らしていたお母様の介護も加わり、忙しい日々です。彼女たちの昔と変わらぬ友情と、やさしさに私も頑張らなくてはと元気付けられました。

12.4 東京・中野の宮本紀子さん宅で。中央・杉本裕子さん
三人とも体型が変ってない！

世田谷区の太田さん宅で。朋子さんと玄ちゃん（5歳）摸ちゃん（2歳）と絵本を読んであげていたら息子の幼い日と重なり懐かしかったです。みなさん、また来てね」玄ちゃんのことば嬉しかったです。

4月・アイヌ神謡集をCD収録により芸能文化賞を受けた中本ムツ子さんを訪ねました。

日本山岳会に入会したものの、力のなさを思い知りました。体力をつけるには回数多く山に登ることだと少しずつレベルアップめざして努力しました。１１月に十勝連峰三段山雪上訓練に初めて参加。ピッケルでの滑落停止訓練、アイゼンをつけての斜面をトラバースしたり、ザイルでの懸垂下降等、緊張しましたがやり遂げた満足感に満たされました。

### Ⅱ　「アイヌ民族からのメッセージ」全講座を皆勤しました

「アイヌ神謡集」を残した天才少女、知里幸恵に光をあてた春の第１弾，幸恵の思いを追った夏の第２弾、「アイヌ文化に広がりを求めて」、オホーツク文化など周辺に刺激を与えたアイヌ文化の奥深さとアイヌ語にも目を向けた第３弾とさまざまな分野で活躍する講師のお話に毎回引き込まれました。詩のように美しいアイヌ語に魅せられました。毎回受講するのは厳しい日もありましたがなんとか皆勤できました。さらに学んで、アイヌ語で会話できるようになりたいと思います。

### Ⅲ　初めてのザイル・アイゼンワークに緊張と感動

11.21 三段山山頂に全員が立ち、すてきな笑顔です

12.11 支部晩さん会で
左から反本さん、長谷川事務局長と横須賀さん